

ヘレネー（ヘレネ）とトロヤ戦争

TI

ヘレネー（ラテン語: Helena、英語: Helen）は、ギリシア神話でトロヤ戦争の原因となった絶世の美女です。長母音を省略してヘレネとも表記されます。世界三大美人とは、クレオパトラ 7 世、楊貴妃と小野小町を一般に指しますが、小野小町を三大美人に数えるのは日本独自の話であり、世界的にはヘレネーだという指摘があるほどです。

Ref.1 [ヘレネー - Wikipedia](#)

Ref.2 [ヘレネー（へれねー）とは【ピクシブ百科事典】 \(pixiv.net\)](#)

ヘレネーはスパルタ王のテュンダレオスとスパルタ王妃レダの子供として生まれた。しかし、レダが妊娠中の時に大神ゼウスが彼女を見初め、白鳥に変身して交わったことでレダは二つの卵を産み落とした。

一方の卵からは二人の男の赤ん坊、もう一方の卵からは二人の女の赤ん坊が生まれた。伝承によって説が異なるが、一般的にこの四人の子供たちは、兄のカストルと姉のクリュタイムネストラはテュンダレオスの子であるため死ぬ運命にある人間、弟のポリュデケウスと妹のヘレネーはゼウスの子であるため不死性を持ち合わせた半神である。

ヘレネーは 12 歳のとき英雄テセウスにさらわれるが、このときは兄弟（カストルとポリデウケス）に救い出される。やがて彼女をめぐるギリシア中から求婚者が押し寄せるが、彼女は結局スパルタ王メネラオスの妻となる。そして娘ヘルミオネを生みながら、今度はトロヤの王子パリスに誘惑されてトロヤへ出奔する。

トロヤ遠征は、こうして彼女を取り返すため、全ギリシアの英雄たちによって企てられた。激闘 10 年ののち、ついにトロヤが陥落すると、メネラオスは戦争の元凶であるヘレネーを罰しようと彼女の胸に剣を突きつけるが、その美しさに打たれて剣を取り落とす。そしてヘレネーは夫とともにスパルタに帰還し、幸せな余生を送った。

また死後は、「白い島」（一種の極楽）でアキレウスと結婚したとも伝えられる。本来、彼女は樹木神、あるいは豊穡（ほうじょう）女神であったのが、のちに英雄伝説中のさらわれる美女に変貌（へんぼう）したものと考えられている。